

プロヴティフ 9 日目。本日も快晴。日中気温は上昇しますが、吹く風は日増しに秋を感じさせます。ただ、日差しは強く相変わらず選手たちが苦勞しています。

今日のコースの風向きはスタートからゴール方向へ吹く順風でした。さざ波が立つ程度の風速でした。

午前 7 時、U19 全体クルーミーティング。今日のレースについて確認をしました。

- ・日中は気温が上がるので出艇時間はいつもより遅らせよう。その分、陸上アップを十分に。
  - ・JM4x ~ キャッチをクイックに。「ため」を作らず素早く水をつかもう。
  - ・JW4x ~ 昨日のレースで艇が傾くシーンが見られた。オールの深さをリギングで修正。ブッシュを 5 度に変え、ハイトを 4mm 下げる。これで勝負に行こう。
  - ・スタートで艇を曲げないように。  
スタートブザーのタイミングを読むのが難しいので、バウポジションの選手が風を考慮して艇の進行方向を微調整してスタートに備える。
  - ・「負けない強い心」と「自分たちの漕ぎを分析できる冷静な心」の両方が必要だよ。
  - ・自分たちの最速のスピードを出す。そしてそのスピードに乗り続けよう。
  - ・リズムが乱れたらコールを掛けよう。そして修正しよう。
- 以上のポイントを全クルーで確認してレースに臨みました。

しかしながら、各レースとも結果は厳しいものとなりました。以下の通りです。

10 時 59 分 JM1x Heat (予選) 4 組

1 位 CHN 7:08.24

2 位 IRL 7:13.05

3 位 ZIM 7:14.77

4 位 EST 7:22.12

**5 位 JPN 7:27.06**

洲本実業高校福井君が挑みました。第 1 クォーター (500m) は健闘して 2 位通過。中盤以降のコンスタント勝負で外国勢と水が空き始めました。ゴールは第 5 位。本人いわく「1000m から喉が痛くて呼吸が苦しかった・・・。」

明後日の E ファイナル (25 位~30 位決定戦) に賭けます。

11 時 48 分 JW1 x Haet5 組

1 位 RSA 7:48.37

2 位 ESP 7:54.68

**3 位 JPN 7:59.41**

4 位 NOR 8:01.29

早稲田大学 1 年生榊原さんが出漕しました。大学生ですが早生まれで U19 のカテゴリーでエントリーしています。2011 年イギリス・イートンで行われた世界ジュニアではこの種目第 7 位と頑張りました。明日のクォーターファイナル（準々決勝）以降、順調に勝ち上がり今年には是非とも A ファイナルを目指したいものです。明日以降の活躍を期待します。

13 時 05 分 JW4 x Repechage（敗者復活）2 組

1 位 GBR 6:44.88

2 位 CHN 6:47.39

3 位 CZE 6:54.00

4 位 FRA 6:59.74

**5 位 JPN 7:11.50**

今日は昨日のレースの反省を踏まえて、艇を大きく揺れさせないようにとポイントを絞って臨みました。2000m を限りなくノーマスで漕ぎ切ったらチャンスがある事も確認して岸を蹴り出しました。

しかしながら厳しいレースとなりました。スタートからイギリス、中国、チェコ、フランスが飛び出し、それを必死で追いかけるも徐々に水が空き始め 5 位でのゴールとなりました。

明日は C ファイナル（13 位～16 位決定戦）に挑みます。

13 時 26 分 JM4 x Quarterfinal（準々決勝）3 組

1 位 ITA 5:52.96

2 位 NED 5:55.13

3 位 ROU 5:55.67

4 位 NOR 5:58.97

5 位 AUS 5:59.26

6 位 JPN 6:20.08

3 位以内を想定してレースに挑みました。昨日の予選でつかんだ手応えを今日のレースに活かしたかったというのが本音です。岸を蹴り出す前にポイントを確認してレースをイメージしました。

スタートの感触は、クルーたちは「良いスタートが切れた。」と言っていましたが、実際はイタリア、オランダ、ルーマニア等に出遅れていました。ただ、ミーティングでは「ス

タートの飛び出しはそんなに重要ではない。最も重要なのはコンスタントスピードだ。」という事を確認していたので慌てませんでした。ところが、その重要視していたコンスタントスピードが乗りません。徐々に各国から置いて行かれ、どんどん水が空き始めました。結果第6位でゴール。

スタート前、大林コーチから「1位もあるし、6位もあるぞ。」というニュアンスのアドバイスがありましたがその「第6位」ゴールとなってしまいました。

以上、本日は JAPAN U19 の全クルーがレースに挑みました。当然の事ながら、選手・スタッフ一丸となって戦いました。しかしながら世界の壁は高い。それが今日の現実であり、実感させられた厳しさです。

しかし、明日があります。今出来ることは、沢山食べる事、そして良く眠る事、明日へのエネルギーを蓄える事、もちろん身体も心もです。

「リセット」の重要性を感じます。それを心掛けて明日へ挑みます。

どうか明日も、明後日も応援を宜しくお願い致します。本日はありがとうございました。